

日本の城とは？

城の起源は、弥生時代にさかのぼり、人々が集落を作り、集落全体を堀で囲んだ環濠集落や丘などの上に集落を作った高地集落が起源とされている。飛鳥時代になると東北地方では、儀式や政務をおこなう政庁と呼ばれる建物のまわりを堀や柵で囲んだ城柵が出現する。また、西日本では、唐（今の中国）や新羅（今の朝鮮半島東部）との戦いに備えて山に城（古代山城）が築かれた。鎌倉時代になると、険しい山の地形を利用した城が作られるようになり、戦いのときに使用された。室町時代後期になると、戦いが頻繁におこなわれるようになり、ふもとになった城主の館も山の中につくるようになった。その結果、山全体が城となり、山城は巨大化するようになった。安土桃山時代に活躍した織田信長は、初めて城に天主（天守）を築いた。これは、権力を示すための役割を持っていた。その後、天守を築くスタイルが各地に広まっていった。江戸時代に幕府が出した「一国一城令」により、ひとつの藩（国）にひとつだけの城を残し、他は壊されてしまった。明治時代に入ると、政府は、「廃城令」を出し、多くの城は売り払われ、その後の太平洋戦争により、多くの城が焼失した。現在は、戦後の再建ブームなどで多くの城が再建され、土造りの山城も整備がおこなわれるようになった。

城郭用語

●堀（ほり）

攻めてくる敵から城を守りやすくするため、土を掘り込んで作った大きな溝のこと。

●空堀（からぼり）

水のない堀のこと。堀の壁はよじ登ることができないほど急な角度である。

●堀切（ほりきり）

敵が尾根づたいに攻めてくるのを防ぐために尾根と尾根をV字形に掘った空堀のこと。

●土塁（どるい）

堀を掘ったときの土を盛って作った土手のこと。

●虎口（こぐち）

城の出入り口のこと。

●曲輪（くるわ）

城内で区切られた平坦な区画のこと。

●丸馬出（まるうまだし）

半円形の曲輪と三日月堀がセットになったもの。



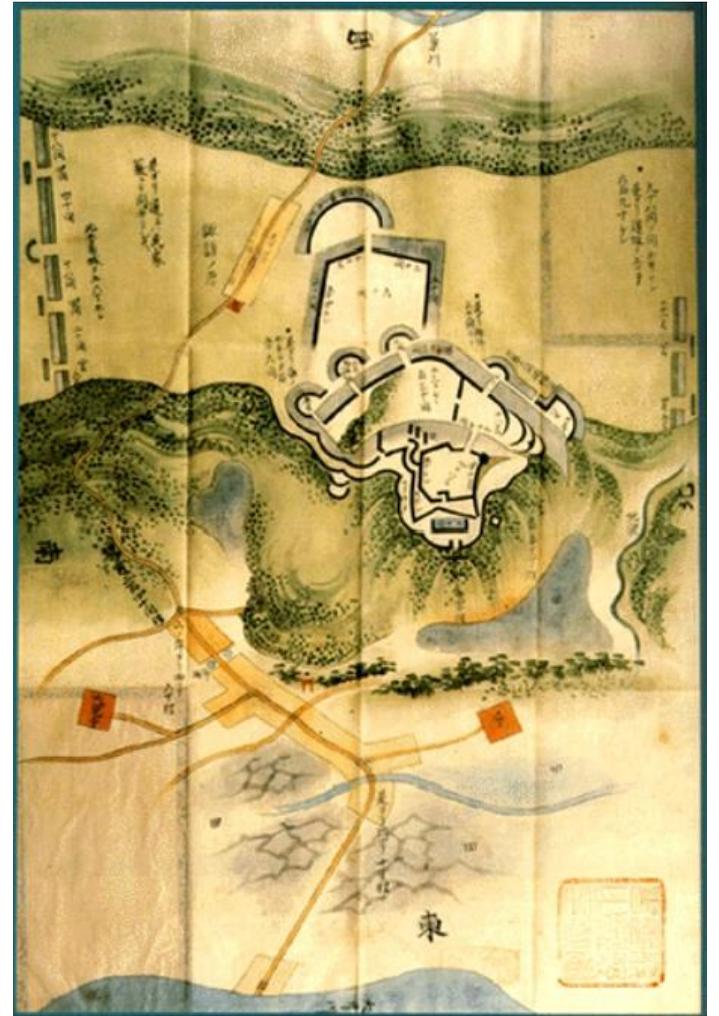
『別冊歴史REAL日本の山城100名城』洋泉社より転載

諏訪原城の歴史（案）

諏訪原城は、武田勝頼が天正元年（1573）に遠江を制圧するために、のちに築城の名手と評された馬場美濃守信春に命じて牧之原に築かせたとされる。その際に城内に武田氏の守護神である諏訪大明神を祀ったことから「諏訪原城」と命名された。当城は、高天神城（掛川市）を攻略するための遠江への拠点施設として、武田軍最前線基地の役割を担っていたと考えられる。

天正2年（1574）5月に勝頼は、高天神城を攻略し、翌年5月には長篠城（愛知県新城市）を包囲したが、織田・徳川の連合軍に大敗したことにより、遠州の武田方の城は守りに転じる。徳川家康は早速、諏訪原城の攻略に移り、同年7月中旬から対陣した結果、8月24日に城兵たちは小山城に逃れ、諏訪原城は徳川方の城となった。諏訪原城を手に入れた徳川家康は「牧野城」と改め、城番を置いて駿河に対する最前線拠点とし、旧駿河の国守今川氏真を迎えて駿河進攻の旗印とした。その後、天正5年（1577）に氏真が浜松に移された後も、家康の譜代である松平康親や松平家忠が城番として守っている。このうち家忠が記した『家忠日記』には、武田氏との攻防戦や、家忠が城番のたびに行った普請にかかわる記述が見られる。

天正10年（1582）に武田氏が滅亡したことにより牧野城の軍事的役割は終え、徳川家康が関東に移った天正18年（1590）頃には廃城になったと考えられている。



諏訪原城絵図（広島市立中央図書館所蔵 浅野文庫）

諏訪原城の歴史(案)

西暦	和暦	諏訪原城の動向	周囲の動向	出典
1573	元亀4年 7月23日	北条氏政、蘆名盛氏への書状の中で武田が駿遠の国境に「地利」を築いていることを報じる		北条氏政書状 (甲陽軍鑑)
1574	天正2年 6月		武田勝頼、高天神城を落とす	織田信忠書状
	11月4日	武田勝頼、佐野房綱への書状の中で「普請大略成就」を報じる		武田勝頼書状
1575	天正3年 5月21日		長篠の戦で武田軍敗れる	今川氏真詠草
	7月5日	武田勝頼、山県昌満に田中・諏訪原・小山・高天神の厳重守備を命じる		武田勝頼書状
	7月中旬	徳川家康、諏訪原城と対陣する		今川氏真詠草
	8月24日	諏訪原城、徳川軍に落とされる		今川氏真詠草 甲陽軍鑑
	9月21日		武田勝頼、小山城に籠城した岡部元信らに感状を与える	武田勝頼感状
	12月27日	武田勝頼、田中穰の三浦昌久らに諏訪原城に向けて伏兵を出させる		武田家朱印状
1576	天正4年 3月17日	徳川家康、駿河攻めにあたり今川氏真を牧野城に置き、松平基太郎家忠・同康親に城番を命じてその対応について指示する		徳川家康判物
1577	天正5年 3月1日	今川氏真、浜松に移るにつき、牧野入城以来奉公した海老江弥三郎に暇を与える		今川氏真判物
1578	天正6年 3月10日	徳川家康、前日に田中城を攻め、「牧野原城」に帰陣する		家忠日記
	3月11日	松平家忠、城普請を行う(～18日)	3月13日、家康の旗本ら小山城を制する	武田勝頼書状
	8月7日	松平家忠、西郷家員に代わって城番に就く		
	8月8日	松平家忠、堀普請を行う(～20日)		
	8月23日	松平家忠、人足を井籠まで送る(～25日)		
	8月28日	未明に牧野城の外堀まで武田の騎馬七、八騎現れる	21日 家康・信康、小山城を攻める	
	8月29日	家康より、苅田で調達した兵糧を与えられる	22日 家康、田中城周辺で苅田を行う	
	9月4日	家康、西駿河より牧野城へ帰陣する。松平家忠、城番を二連木衆(戸田康長)と代わり、市場普請を行う(～7日)		家忠日記
	9月6日	家康・信康は帰陣し、国衆は普請、牧野衆は小山城を攻める		
	10月28日～	連日牧野城より松平家忠のもとに、武田軍の動向について進言が入る	25日 武田勝頼、軍を退く	
	11月晦	牧野城へ鉄砲衆20人が送り込まれる。被越候、敵勝頼廿五日引候由		
	12月6日	牧野城の鉄砲衆帰る		
1579	天正7年 3月7日	松平家忠、西郷家員に代わって城番に就く		家忠日記

西暦	和暦	諏訪原城の動向	周囲の動向	出典
	3月10日	松平家忠、番普請を行う(～12日)		
	3月14日	松平家忠、松平康親を振舞う。足軽衆弄に男女24人、牛馬4頭を連れてくる		
	9月4日	松平家忠、西郷家員に代わって城番に就く		
	9月18日	家康、駿河二山に陣取る。松平家忠は当番にて牧野城の留守居		
	9月19日	牧野衆・懸川衆、駿河当目坂・用宗城を攻め、武田の兵30程討取る		
	9月晦	家康、伊豆から井籠を軽油して牧野城に帰陣する		家忠日記
	10月1日	牧野城の堀普請が始まり、家康らが浜松へ帰陣する		
	10月24日	家康、懸川より牧野城まで出陣する		
	10月25日	松平家康、浜松に来ていた北条家の使者朝比奈泰寄を井籠まで送るも、伊豆船来ず		
	11月2日	朝比奈泰、懸塚港から帰国するために牧野城を出る		
	11月4日	井籠に「かまり(忍びの者)」出現の狼煙が上がり、松平家忠駆け付けると誤り。鳥居元忠の同心、その責により成敗される		
1580	天正8年 4月18日	松平家忠、西郷家員に代わって城番に就く		
	4月23日	松平家忠、番普請を行う		家忠日記
	5月2日	牧野城に家康以下、駿河攻めの兵が集まる。遠州衆は井籠に陣取る	5月1日 家康、懸川城に到着	
			5月3日 家康、田中城を攻める	
1581	天正9年 3月22日		家康、高天神城を落とす	高天神討死注文
	6月11日	松平家忠、西郷家員に代わって城番に就く		
1581	6月12日	松平家忠、普請の沙汰を得るため浜松城へ使者を送る		
	6月13日	牧野城の番普請、延期の連絡届く		
	9月21日	牧野城の城番衆松平基太郎家忠、病状悪化により東條へ帰る(11月1日死去)		
	12月17日	松平家忠、西郷家員に代わって城番に就く		家忠日記
	12月18日	安土城の西尾吉次、織田信長による来週の駿・甲攻めに備え、牧野城へ兵糧を入れる		
	12月21日	番普請行われる。門の用材を大井川より届く		
	12月22日	門の用材届く。懸川より番匠2人到着する		
	12月24日	松平家忠、定番衆を振舞う。晩に松平康親から風呂振舞われる		
	12月28日	門が建つ		
1582	天正10年 2月16日		武田方、小山城を捨てる	
	2月19日	家康、牧野城に入る。諸勢は金谷に陣取る		家忠日記
	2月20日	家康、田中城を攻める		
	3月11日		武田勝頼父子、天目山で自害	

武田氏時代の諏訪原城

島田市では、平成16年度から平成27年度にかけて史跡整備に伴う発掘調査を実施している。現時点で、確実に武田時代の遺構が確認されたのは、本曲輪、二の曲輪東内馬出、二の曲輪東馬出である。その他の曲輪からは、武田時代の遺構は確認されていない。今まで、大手曲輪、大手外馬出以外は、武田時代の城として認識されていたが、このような調査の結果から、武田時代の諏訪原城は、本曲輪と二の曲輪東内馬出と二の曲輪東馬出を合体させた南端に出丸のように突出配置した極めて小規模な城であったと推定される。

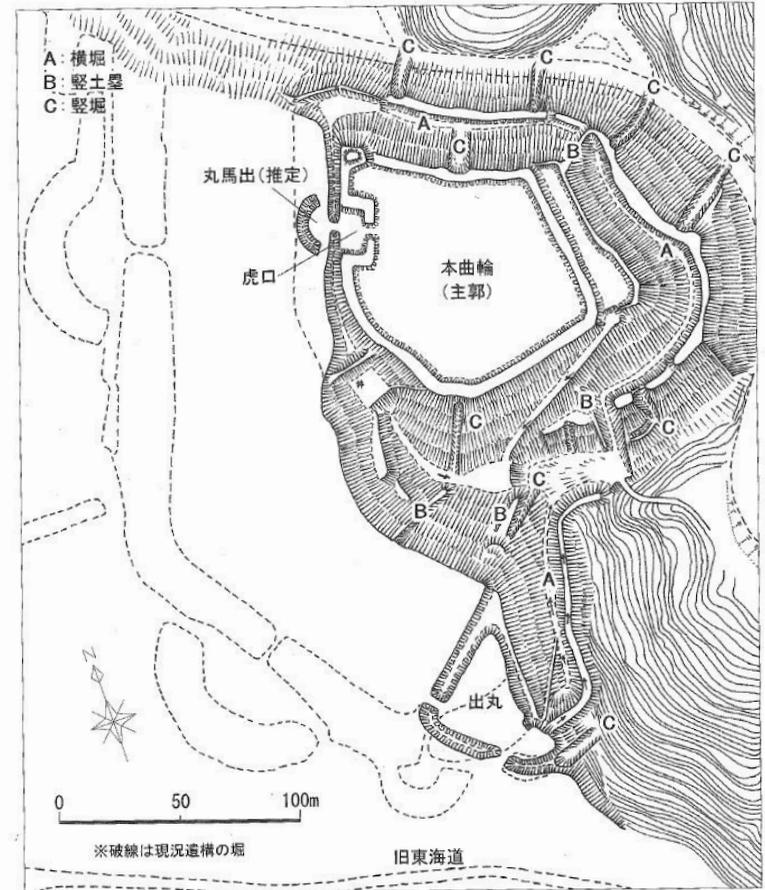
－発掘調査の成果－

本曲輪→焼土を挟んで二面の遺構（生活）面

二の曲輪東内馬出→堀の改修痕

薬研堀から箱堀へ

二の曲輪東馬出→曲輪の整地（2回）



武田時代の諏訪原城推定復元縄張図（復元＝樋口隆晴／加藤理文）

諏訪原城跡史跡整備事業の経過

◎構想関係

諏訪原城跡保存管理策定報告書（H4年度）

諏訪原城跡整備基本構想（H8年度）

諏訪原城跡整備基本構想改訂版（H13年度）

諏訪原城跡整備基本計画（H22年度）

◎公有化

約83%（平成3年度～平成19年度）

◎整備のための発掘調査

平成16年度～平成27年度

◎史跡整備事業（平成25年度～）

堀や園路の整備、門などの復元整備

サイン整備事業

ガイダンス建設事業



日本100名城と続日本100名城について(案)

財団法人日本城郭協会では、平成19年度に創立40周年を迎えた記念事業として、文部科学省・文化庁の後援を得て「日本100名城」を選定した。各都道府県から1城以上5城以内として平成17年8月から10月まで日本城郭協会の会報やホームページで、100名城の推薦を全国の城郭ファンに呼びかけてリストされた城郭は478城におよんだ。その後、「次の城を！」の聲が高まったことにより、協会創立50周年記念事業の1つとして「続日本100名城」の選定をおこない、平成29年3月31日に「続日本100名城」を選定し、4月6日の城の日に発表をおこなった。このデータを6地方、47都道府県別に得票順に整理して基礎資料と位置づけ、熱心な討論の末、100名城を選定している。

日本100名城及び続日本100名城選定の三基準

①優れた文化財・史跡であること

城郭は、城域の選定、縄張（設計）、普請（土木工事）、作事（建築）がそろってこそ名城とされる。

②著名な歴史の舞台であること

名将の拠点城郭や、歴史的イベントの舞台となった城郭で、今にその面影を偲ぶことができる城郭。

③時代・地域の代表であること

城は弥生時代に誕生し、古代・中世と変遷をとげ、織豊時代に日本独自の美しい近世城郭を完成させ、幕末にその役割を終える。城郭発達史の観点から各時代を代表する城として、古代の朝鮮式山城や城柵、中世の居館・山城は欠かせないといえる。日本は地理的環境も地域的文化的にも変化に富み、台風・豪雪への工夫、水辺の立地など環境への適応はもとより、北海道のチャシ、沖縄のグスクなど独自の城郭文化も重要である。

